

祈りの人 ダニエル

人は最初から素晴らしい人ではありません。ダニエルは困難の中で神に祈り、神様との個人的な対話により、神の人・祈りの人と成長しました。

紀元前605年、新バビロニア帝国の侵略により、南ユダ王国のエホヤキム王は側近の者たちと共にバビロンに連行されました。その捕囚の民の中にいたダニエルはまだ10歳位の子供でした。鎖に繋がれる彼の脳裏には、かつて道端で泣きながら子どもたちに語る預言者エレミヤの言葉が響いていたと思われます(エレミヤ6:11)。

バビロンに着いて間もなく、将来のバビロンの官僚育成のため選ばれたダニエルと友人3人に、信仰を守り通すための霊的な戦いが始まりました。

神が共におられたダニエルたちは捕囚奴隷の立場から三年程で、新バビロニア帝国の行政の中枢に加えられました。特別にダニエルは、神により帝国の王たちに真の神の存在を証しました。そればかりか70年後、彼の熱心な祈りはエレミヤによって預言されたイスラエルの帰還を実現へと至らせたのです。

聖書の学び

I、神の人ダニエル

改名させられた名前

ダニエル(神は我がさばき) → ベルテシャツアル(ベル(偶像)の王子)

ハナンヤ(主の賜物) → シャデラク (アク(偶像)の命令)

ミシャエル (神の勇氣) → メシャク (セシャク女神にささげたもの)

アザルヤ (主は我が助け) → アベ・デネゴ (ネゴ(偶像)のしもべ)

1、神に選ばれたイスラエルがバビロンに敗北した原因は何でしょうか。
また、捕えられ連れて行かれた原因は何でしょうか？

①エレミヤ書7:23、24章を読みましょう。

②エレミヤ20:4～5も読みましょう。

2、バビロンに捕らえ移されたダニエルは、どのような人だったのでしょうか？ (ダニエル書1:3～6)

①人としての賜物 (ダニエル書1:3～6)

②神様から与えられた賜物 (ダニエル書1:17)

③ダニエルの寿命 → クロス王の元年(BC537) 約80歳 (ダニエル書1:21)

Ⅱ、子どもたちの偶像との戦い

(ダニエル書1:8～21)

1、偶像の国バビロンでは連れてきた奴隷を自国の神に改宗させ、偶像を信じるように教育する方針があった。

①偶像に献げられたごちそうを食べさせ、バビロンに同化させる。(ダニエル書1:5)

②子どもたちの名前を改名させた。(ダニエル書1:7)

2、ダニエルたちは強制力のあるこの誘惑にどのようにしましたか？

(ダニエル書1:8～20)

1) 彼らの決心(ダニエル書1:8、申命32:38) →書かれていないが、必死の祈りがある

2) 世話役と交渉する知恵(ダニエル書1:12～13)

3) 神様からの助け… ①世話役の心 ②野菜と水で元気にされた ③豊かな賜物

(ダニエル書1:14～16)

Ⅲ、神に従う者を祝福される神様

(ダニエル書2:1～49)

1、神様はユダヤ人のためにネブカドネツアル王の夢をどのように用いられましたか。(ダニエル書2:10～11)

王はどのような夢なのか教えないで、夢の意味を解かせようとした。

2、殺されそうになったダニエルはどうしましたか？(ダニエル書2:12～20)

1) ネブカドネツアル王に時間をくれるように願う(ダニエル書2:16)

① 3人の友人に話し、心を合わせて祈った。(ダニエル書2:17、マタイ20:18～19)

② 知恵を与えて下さる神様 (ヤコブ1:5)

③ 主の御霊は「知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、主を恐れる、知識の霊である」

(イザヤ11:2)

3) ダニエルのネブカドネツアル王への証し

①夢を通して、神様が世界の歴史を支配しておられる。(ダニエル書2:21)

②王に真の神様の存在を認めさせた。(ダニエル書2:47)